

大使館情報

2023 年 12 月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢
- (2) 経済政策等
- (3) 金融政策
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢（11 月の出来事）

【内政】

- (1) ルーラ政権支持率（Atlas Intel 社世論調査）
- (2) ルーラ大統領がディーノ法務治安相を連邦最高裁判所（STF）判事に指名

【外交】

- (1) イスラエル・パレスチナ武装勢力間の衝突関連
 - (ア) ルーラ大統領と各国首脳との電話会談
 - (イ) ガザ地区から 32 名の伯人退避
- (2) 伯スペイン首脳電話会談
- (3) 伯ガイアナ首脳電話会談
- (4) 伯インド首脳電話会談
- (5) 伯サウジアラビア首脳会談
- (6) 伯カタール首脳会談

3. トピックス

- (1) 令和 5 年度外務大臣表彰式の開催（11 月 14 日）
- (2) 自衛隊記念日レセプションの開催（11 月 29 日）

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 在伯公館 SNS リンク一覧
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢（11月発表の経済指標） ※実質 GDP 成長率の発表は12月。

- (ア) 2023年第3四半期（7～9月期）の実質 GDP 成長率は前期比+0.1%（3四半期連続のプラス成長）、前年比+2.0%（11四半期連続のプラス成長）となった。
- (イ) 9月の鉱工業生産は前月比+0.1%、前年同月比+1.2%となった。
- (ウ) 9月の小売売上高は前月比+0.6%、前年同月比+3.3%となった。
- (エ) 10月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+0.24%となった（前月：+0.26%）。直近12か月累計は+4.82%となり、前月（同+5.19%）となった。
- (オ) 失業率（8～10月）は7.6%となり、3か月前（5～7月）の移動平均7.9%から0.3%ポイント低下。また前年同期（2022年8～10月）の8.3%から0.7%ポイント低下した。
- (カ) 伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus 調査）について、11月24日時点で、GDP 成長率予測については、2023年は+2.84%（前週から0.01%ポイント低下）で、2024年は+1.50%（前週から変わらず）となった。インフレ率については、2023年は4.53%（前週から0.02%ポイント低下）で、2024年は3.91%（前週から変わらず）となった。

(2) 経済政策等

11月8日、付加価値税の創設を含む税制改革に係る憲法修正案が上院で可決。下院案に修正が加えられたため下院へ差し戻された。

(3) 金融政策

次回伯中央銀行金融政策委員会（Copom）は12月12日及び13日に開催予定。

(4) 為替市場（レートは伯中銀の公表値から算出）

- (ア) 11月の為替市場は4.86～5.02 レアル/ドルで推移。
- (イ) 月の前半は4.87～5.02 レアル/ドルで推移。米金融政策見通しのほか、国内税制改革の進展や財政を巡る動向等を材料に概ね上昇傾向で推移した。
- (ウ) 月の後半は4.86～4.94 レアル/ドルで推移。米国金融政策の見通し等を材料に概ね横ばいで推移した。

(5) 株式市場

- (ア) 11月の株式市場は115,053～127,331 ポイントで推移。
- (イ) 月の前半は115,053～123,166 ポイントで推移。米国金融政策の見通しや国内税制改革の進展等を材料に、概ね上昇傾向で推移した。
- (ウ) 月の後半は124,639～127,331 ポイントで推移。米国金融政策の見通しや資源価格の動向等を材料に、概ね上昇傾向で推移した。

2. ブラジル政治情勢（11月の出来事）

【内政】

（１） ルーラ政権支持率（Atlas Intel 社世論調査）

11月17日から20日にかけて5211人を対象にインターネット上で実施した世論調査によると、ルーラ政権に対するネガティブな評価（悪い／非常に悪い）が就任後初めてポジティブな評価（非常に良い／良い）を上回った。今回の調査では、「非常に良い／良い」が42.7%、「悪い／非常に悪い」は45.1%であった（「普通」は10%）。本年1月の時点では、「非常に良い／良い」が41%で、「悪い／非常に悪い」は38%であった。また、ルーラ大統領の支持率は、支持50%（1月比1ポイント減）、不支持47%（5ポイント増）であった。

（２） ルーラ大統領がディーノ法務治安相を連邦最高裁判所（STF）判事に指名

11月27日、ルーラ大統領は、ローザ・ウェベル前STF長官の退任（STFの年齢規定による退任）に伴い空席となっていたSTF判事に関し、ディーノ法務治安相を連邦最高裁判所（STF）判事に指名した。ディーノ次期STF判事の承認手続（上院憲法司法委員会の質疑応答）は来月13日に行われる予定。

【外交】

（１） イスラエル・パレスチナ武装勢力間の衝突関連

（ア） ルーラ大統領と各国首脳との電話会談

ルーラ大統領は、イスラエル・パレスチナ武装勢力間の衝突の発生を受け、以下の電話会談を実施。

11月10日：伯インド首脳電話会談（モディ・インド首相）

11月16日：伯イスラエル首脳電話会談（ヘルツォグ・イスラエル大統領）

11月20日：伯EU首脳電話会談（フォン・デア・ライエン／EU委員長）

（イ） ガザ地区から32名の伯人退避

12日、ガザ地区の白人32名が戦闘開始から35日ぶりにエジプトに避難した。13日、一行はカイロから政府専用機で伯へ帰国し、ルーラ大統領とジャンジャ大統領夫人により出迎えられた。

（２） 伯スペイン首脳電話会談

11月3日、ルーラ大統領は、サンチェス・スペイン首相と電話会談を実施した。両首脳は、EUメルコスールFTAの締結を早める必要性について協議し、伯のメルコスール議長国とスペインのEU議長国の任期が同時期であることが同協定の締結をまとめる好機であるとして一致した。

（３） 伯ガイアナ首脳電話会談

11月9日、ルーラ大統領は、アリ・ガイアナ大統領と電話会談を実施した。アリ大統領は、インフラや物流の分野で伯との協力を強化したい、と述べた。また、ルーラ大統領は、2024年2月の第46回カリブ共同体（カリコム）首脳会議に際し、ガイアナを訪

問するよう招待を受けた。

(4) 伯インド首脳電話会談

11月10日、ルーラ大統領は、モディ・インド首相と電話会談を実施した。両首脳は、国連安保理における伯決議案が多数の支持を得たにも拘わらず拒否権により採択されなかったことに象徴されるような多国間主義の脆弱性について協議した。また、BRICSの新加盟国がグローバル・ガバナンス機関の改革に参加することの重要性を強調した。また、2024年のBRICS首脳会談の準備段階として、半年以内にIBSA外相会議を開催することを提案した。

(5) 伯サウジアラビア首脳会談

11月28日、ルーラ大統領はムハンマド・サウジアラビア皇太子兼首相と会談を実施した。両首脳は、二国間関係の強化及び双方向の投資について協議した。サウジ公共投資基金（PIF）は伯で100億米ドルの投資を計画している。また、ルーラ大統領はムハンマド皇太子兼首相を伯に招待した。

(6) 伯カタール首脳会談

11月30日、ルーラ大統領は、タミーム・カタール首長と会談を実施した。両首脳は、投資機会、対外貿易品目の拡大、G20におけるパートナーシップ、中東紛争等について協議した。ルーラ大統領はタミーム首長を伯に招待し、タミーム首長はG20の伯議長国支援を承諾すると共に、招待を受けた。

3. トピックス

(1) 令和5年度外務大臣表彰式の開催（11月14日）

11月14日（火）、在ブラジル日本国大使館大使公邸にて、日ブラジル関係の増進に特に顕著な功績のあった個人・団体を称えるべく、令和5年度外務大臣表彰式が開催された。

表彰式では、林大使による挨拶が行われたあと、受賞者1名（ルイス・ニシカワ氏）及び1団体（全国工業職業訓練機構（SENAI））への表彰状および副賞の授与、さらに各受賞者によるスピーチが行われた。式典の後、各受賞者の招待者の皆様と共に受賞者の栄誉を讃え、和やかに懇談を行った。

本レセプションにおける林大使の挨拶は[こちら](#)を参照下さい。



SENAI 代表のグスタヴォ・フィーリョ氏



ルイス・ニシカワ氏



各受賞者及びご関係者との記念撮影

（２）自衛隊記念日レセプションの開催（11月29日）

11月29日（水）、在ブラジル日本国大使館は、大使公邸において自衛隊記念日レセプションを開催した。

冒頭、ブラジル・日本両国の国歌演奏に続き、林大使及び藤田防衛駐在官より挨拶を行った。また、林大使による日ブラジル防衛交流功労者（ヴァルデマール・コンソルチ・ジュニオール退役空軍大佐）に対する在外公館長表彰の授与式も併せて行った。

本レセプションには、ブラジル国防省・海・陸・空軍関係者を始めとするブラジル連邦政府関係者、ブラジル連邦議員関係者、各国駐在武官、サンパウロの日系社会代表など約200名の方々にご参加頂いた。また、レセプションでは日本企業（日本無線、シンギュラー・パーティベーションズ）による展示及び日本酒プロモーションを実施するなど日本の技術や文化を紹介し、皆様に楽しんで頂いた。

本自衛隊記念日レセプションは、日伯両国の防衛交流の進展を示すとともに、今後の防衛交流を一層発展させていく機会となった。

本レセプションにおける林大使の挨拶は[こちら](#)を参照下さい。



レシービングライン



林大使挨拶



藤田防衛駐在官挨拶



公館長表彰受賞者（コンソルチ大佐）



日系軍人との記念写真



各国武官との記念写真



企業展示



会場風景

4. 大使館からのお知らせ

(1) 在伯公館 SNS リンク一覧

在ブラジル大使館をはじめ各総領事館及び領事事務所では、SNS にて文化イベントを含め最新情報等を随時更新しています（以下リンク先をご参照ください）。

在ブラジル大使館 : [facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)
在ベレン領事事務所 : [facebook](#)
在マナウス総領事館 : [facebook](#)
在レシフェ総領事館 : [facebook](#) [instagram](#)
在リオデジャネイロ総領事館 : [facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)
在サンパウロ総領事館 : [facebook](#) [YouTube](#)
在クリチバ総領事館 : [facebook](#) [Instagram](#) [YouTube](#)

(2) 外務省 海外安全ホームページ

(ア) 各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開しています。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(イ) 各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開しています。在伯大使館の情報（令和 5 年度第 2 四半期）は以下のリンク先から。

https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html

(ウ) 各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き ブラジル」を作成し公開しています。

https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html

(3) ブラジル渡航情報

(ア) 危険情報

最新更新日：2023 年 12 月 6 日

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_259.html

以下の地域が「レベル 1：十分注意してください。」となっています。

- ・ブラジリア連邦区
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏
- ・アマゾナス州大マナウス圏
- ・ロライマ州北部
- ・パラ州大ベレン圏
- ・ペルナンブーコ州大レシフェ圏
- ・バイーア州大サルバドール圏

- ・セアラ州大フォルタレーザ圏
- ・パラナ州大クリチバ圏
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

(イ) 安全対策基礎データ

最新更新日：2023 年 8 月 10 日

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え
査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連
絡先を公開しています。

(ウ) テロ・誘拐情勢

最新更新日：2023 年 4 月 11 日

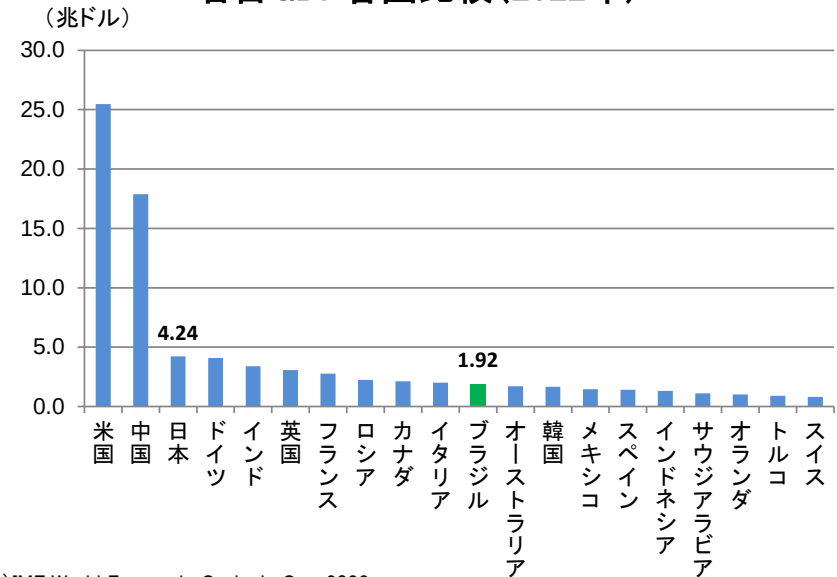
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html

ブラジル経済・二国間経済関係概観

1. 経済構造

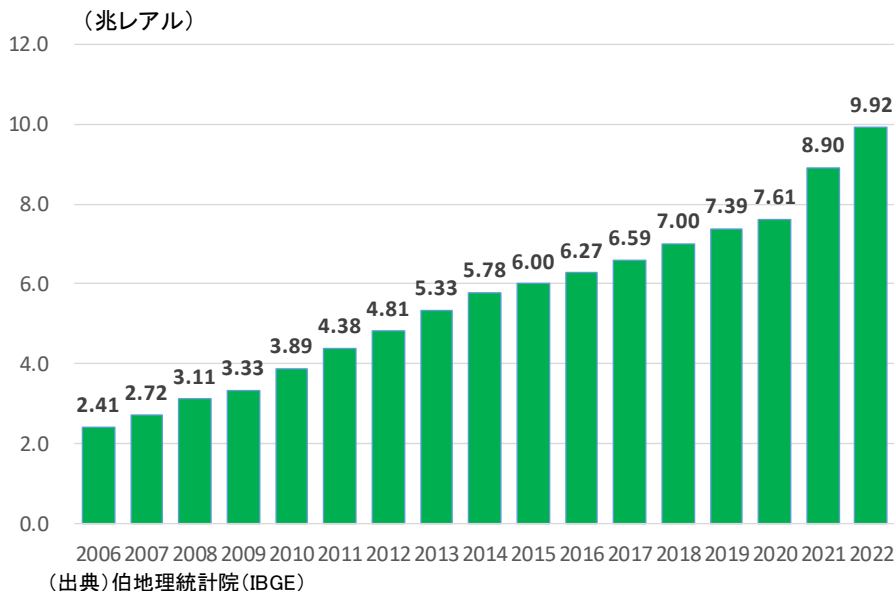
1. 人口約2億300万人、面積約851万km²(2022年国勢調査)
2. 世界第11位の経済規模(名目GDP約1.92兆ドル(2022年):日本の約45%)。一人当たりGDP(約9,455ドル(2022年))は、日本の約28%。
3. 世界有数の農業・資源国であるが、産業別国内総生産(GDP)額では第三次産業(サービス業)が高いウェイトを占めている。
4. GDPを需要項目別でみると、家計消費や総固定資本形成(投資)といった内需が成長に寄与している。

名目GDP各国比較(2022年)

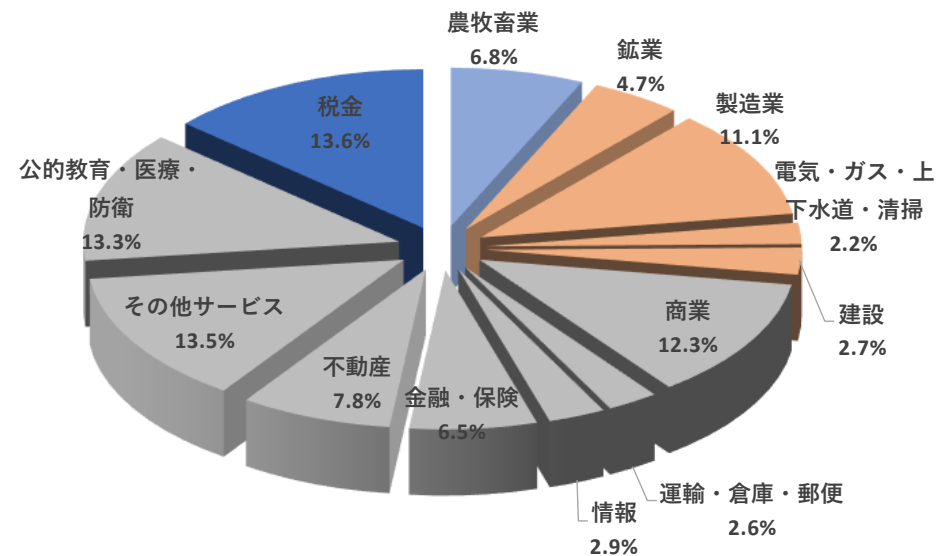


(出典)IMF World Economic Outlook, Oct, 2023

名目GDPの推移



名目GDPの産業別構成比(2022年)

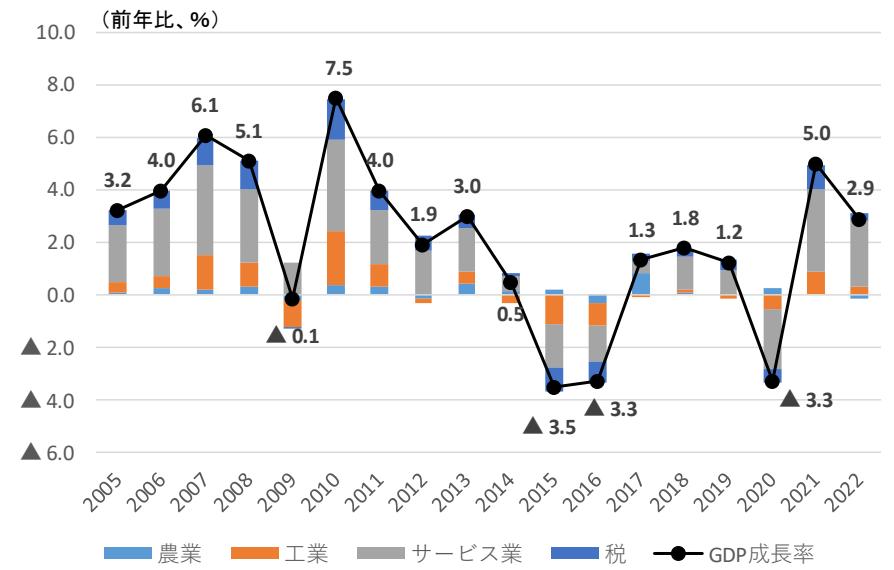


(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

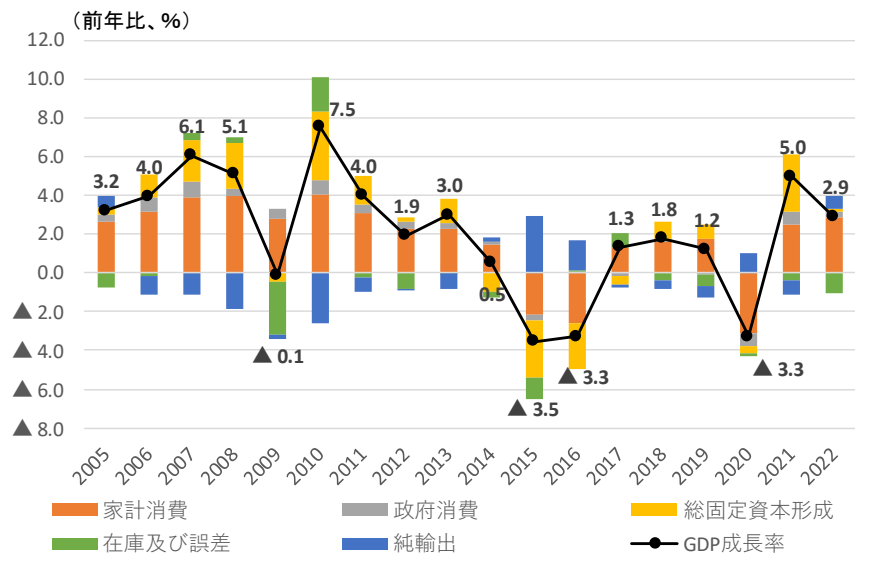
II. 経済の現状

ブラジル地理統計院(IBGE)が12月に発表した2023年第3四半期の実質GDP成長率は前期比+0.1%(3四半期連続のプラス)、前年同期比+2.0%(11四半期連続のプラス)となった。

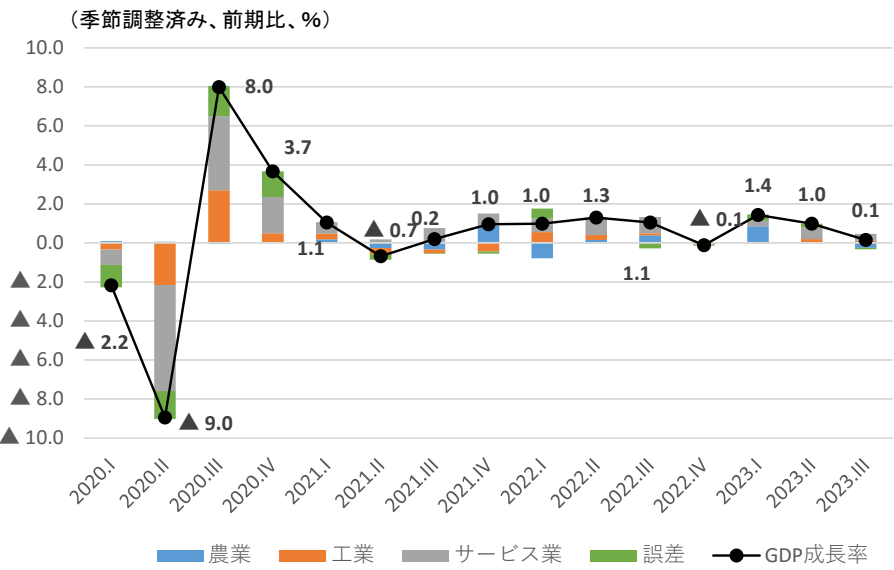
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(暦年)



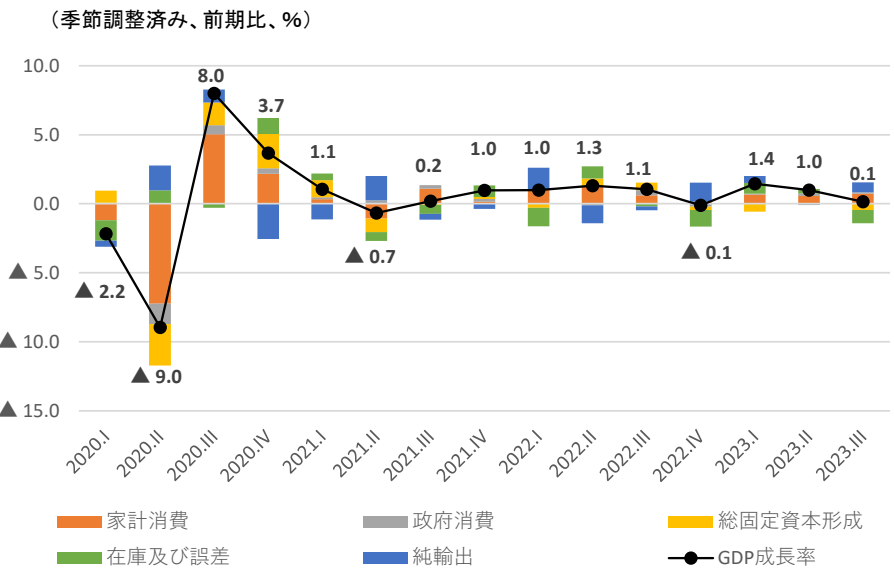
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(暦年)



実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)



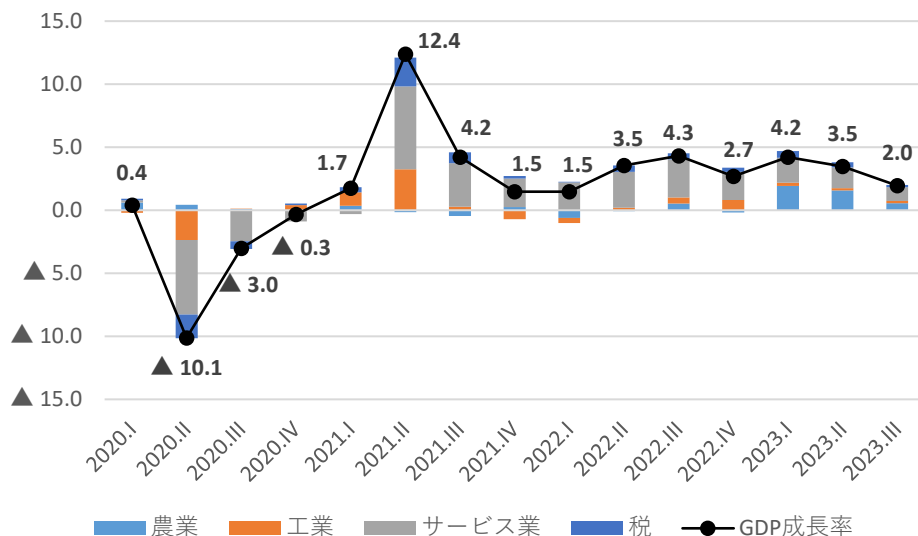
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「誤差」、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典) 伯地理統計院(IBGE) 2

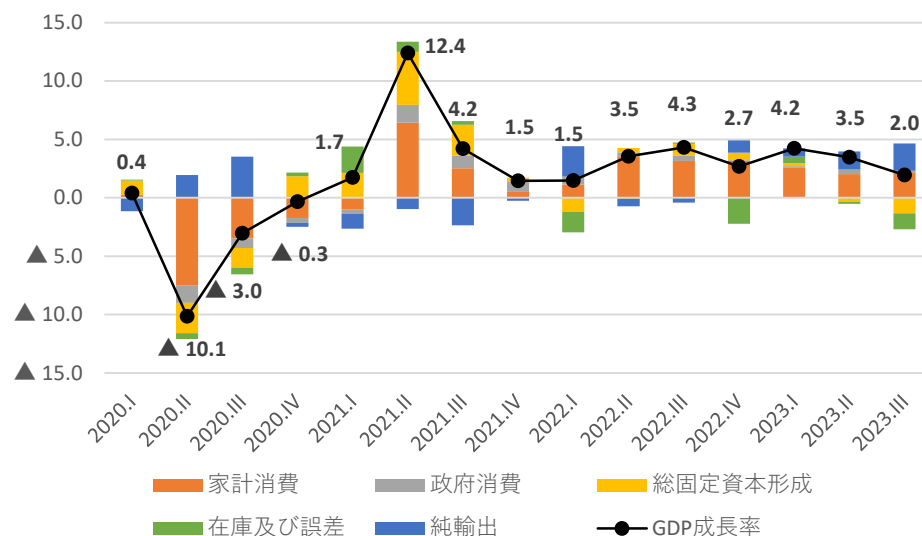
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)

(前年同期比、%)



実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)

(前年同期比、%)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典)伯地理統計院(IBGE)

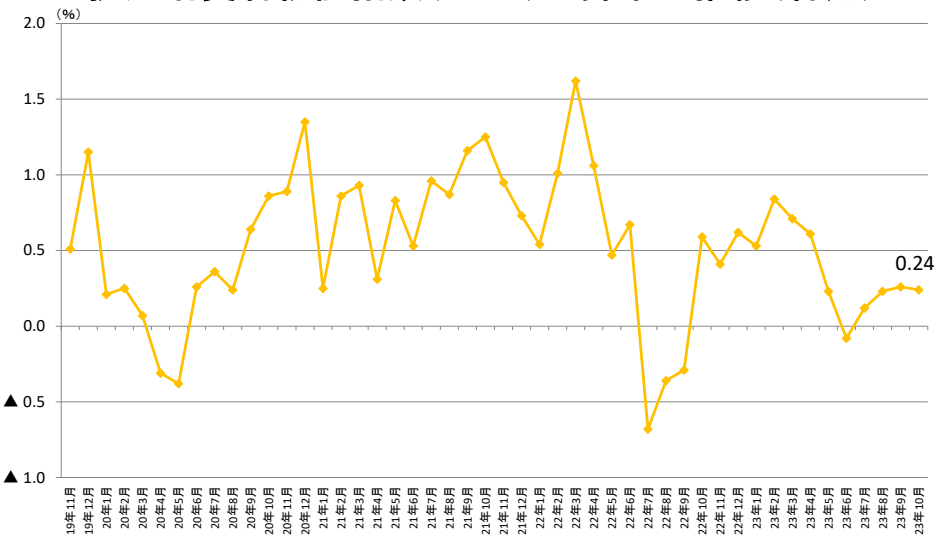
《各機関によるGDP成長率見通し》

	2023	2024
IMF (2023年10月)	+3.1%	+1.5%
伯財務省 (2023年11月)	+3.0%	+2.2%
伯中銀 (2023年9月)	+2.9%	+1.8%
伯中銀Focus (2023年11月24日)	+2.84%	+1.50%

物価の動向と政策金利

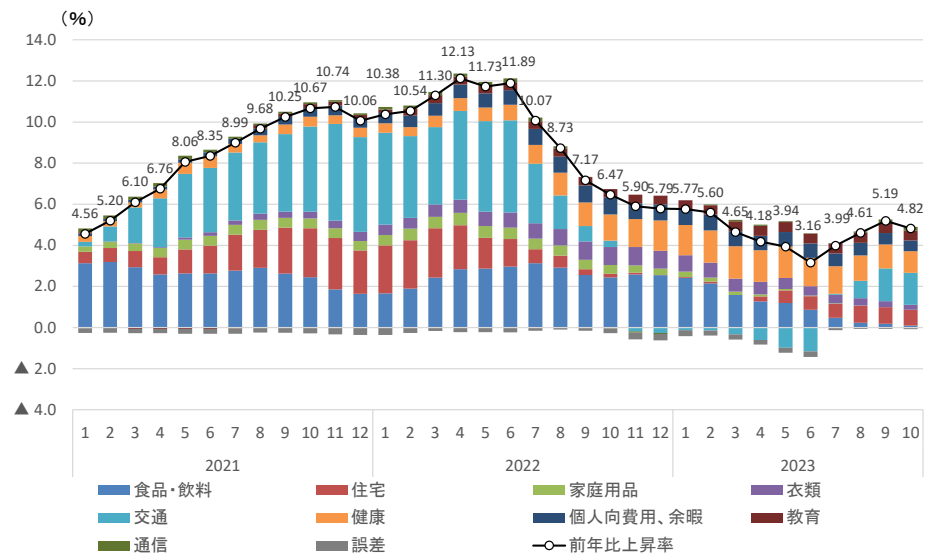
10月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前月比+0.24%、直近12か月累計では+4.82%となった。

拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(各月)



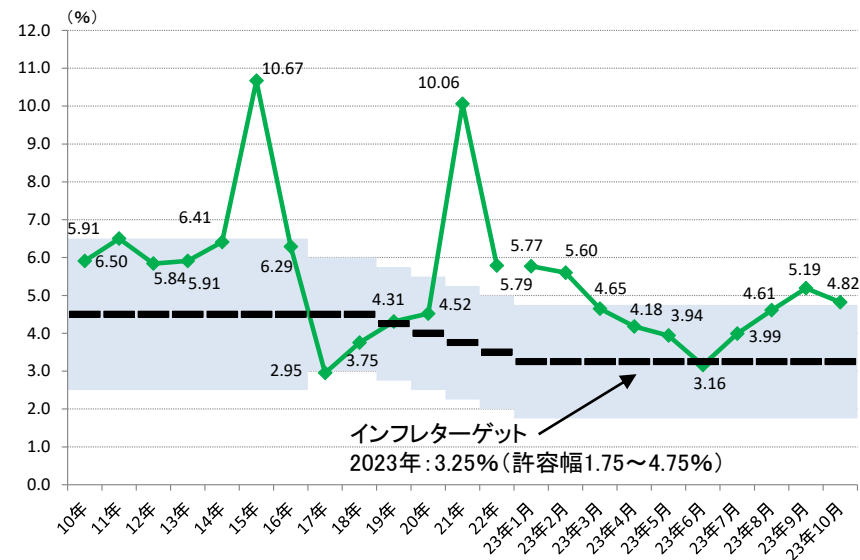
(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の項目別寄与度



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

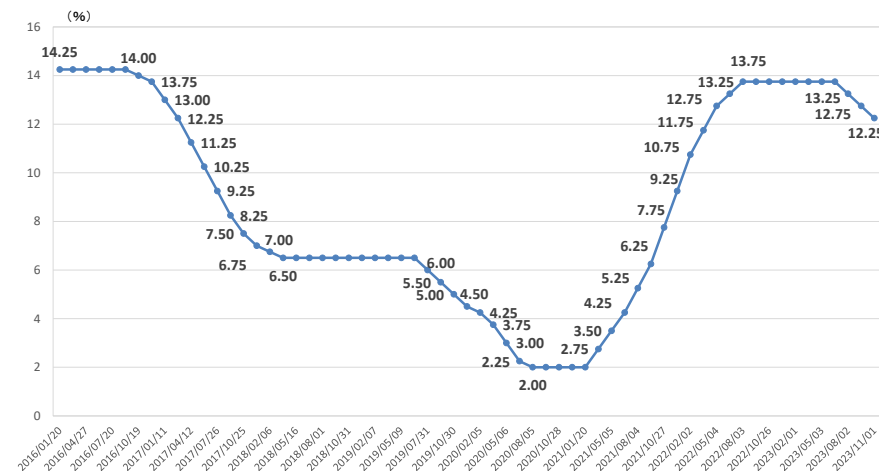
拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(12か月累計)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

政策金利の推移(2016年～)

次回伯中央銀行金融政策委員会 (Copom) は12月12日及び13日に開催予定。

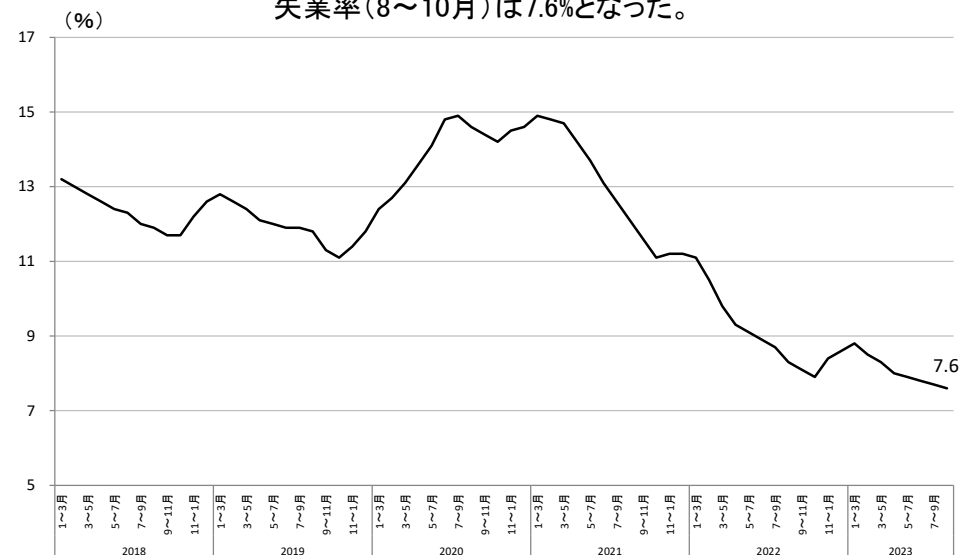


(出典) BCB

労働市場、消費、生産、財政収支の動向

失業率の推移(3か月移動平均)

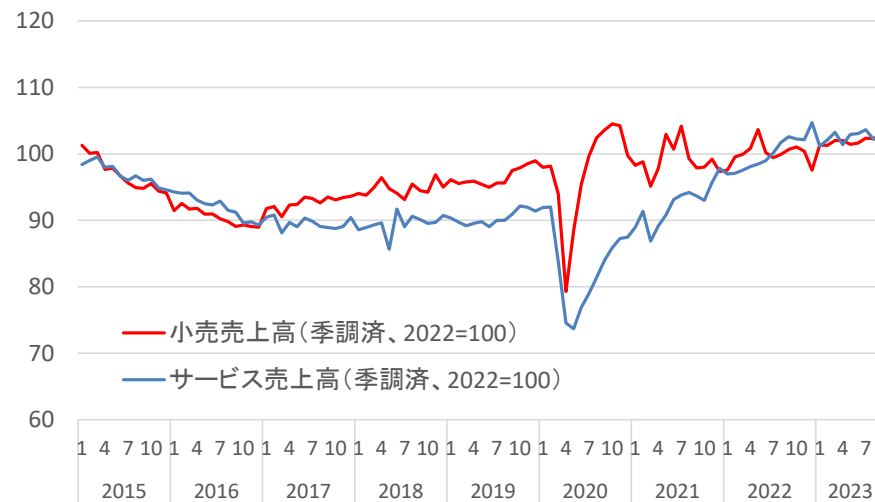
失業率(8~10月)は7.6%となった。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

小売・サービス売上高指数の推移(月次)

小売売上高(9月)は前月比+0.6%、前年同月比+3.3%となった。サービス売上高(9月)は前月比▲0.3%、前年同月比▲1.2%となった。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

鉱工業生産指数の推移(月次)

鉱工業生産(9月)は前月比0.0%、前年同月比+0.6%となった。

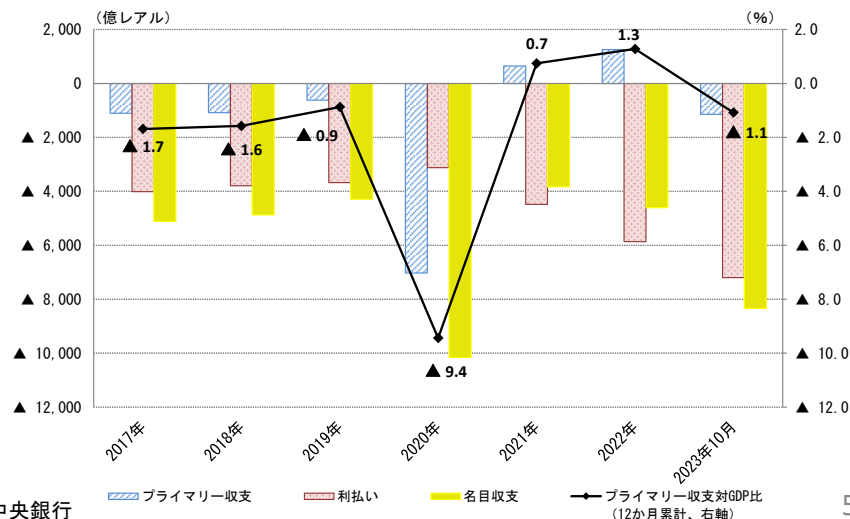
(2022年=100、季調済)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

財政収支の推移(12か月累計)

公的部門(連邦政府、地方政府、公営企業)の2023年10月のプライマリー収支(税収等と政策的経費の収支)は▲1142億レアルの赤字、利払い費は▲7,201億レアルで、これらを合計した名目収支は▲8,343億レアルとなった。



(出典) 伯中央銀行

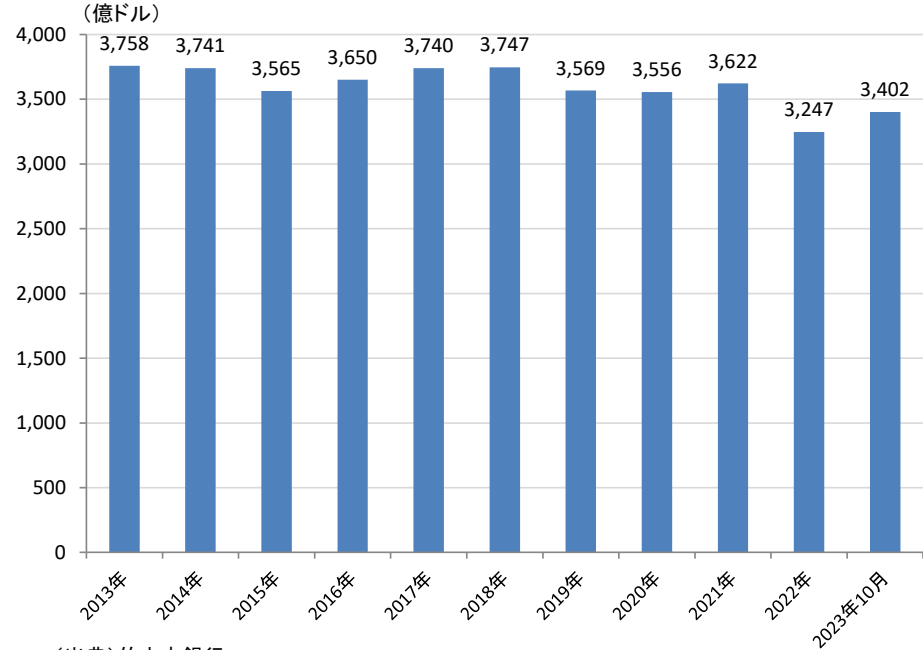
国際収支の動向

国際収支

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	(億ドル) 2023年 10月
経常収支	▲ 515	▲ 650	▲ 245	▲ 464	▲ 536	▲ 208
貿易収支	434	265	324	364	442	664
サービス収支	▲ 360	▲ 355	▲ 209	▲ 270	▲ 396	▲ 303
第1次所得収支	▲ 588	▲ 573	▲ 383	▲ 590	▲ 619	▲ 579
第2次所得収支	▲ 0	12	23	32	37	10
資本移転収支	4	4	41	2	2	3
金融収支	▲ 523	▲ 644	▲ 125	▲ 502	▲ 554	▲ 213
直接投資	▲ 761	▲ 464	▲ 413	▲ 302	▲ 539	▲ 266
対外直接投資	20	228	▲ 35	162	334	183
対内直接投資	782	692	378	464	872	449
証券投資	69	192	129	▲ 79	42	▲ 68
金融派生商品	28	17	54	▲ 10	▲ 20	▲ 39
その他投資	113	▲ 128	247	▲ 251	36	▲ 31

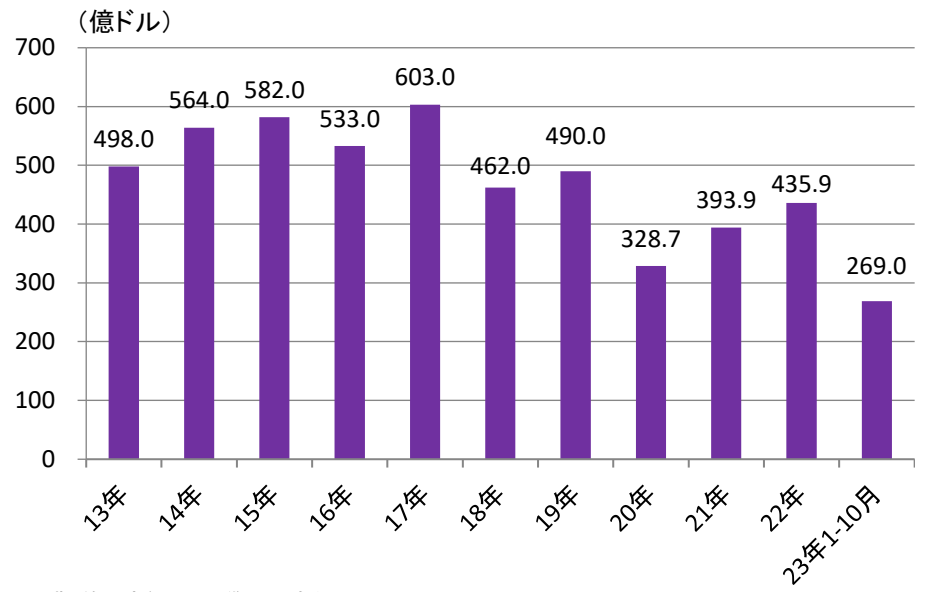
(出典) 伯中央銀行

外貨準備高



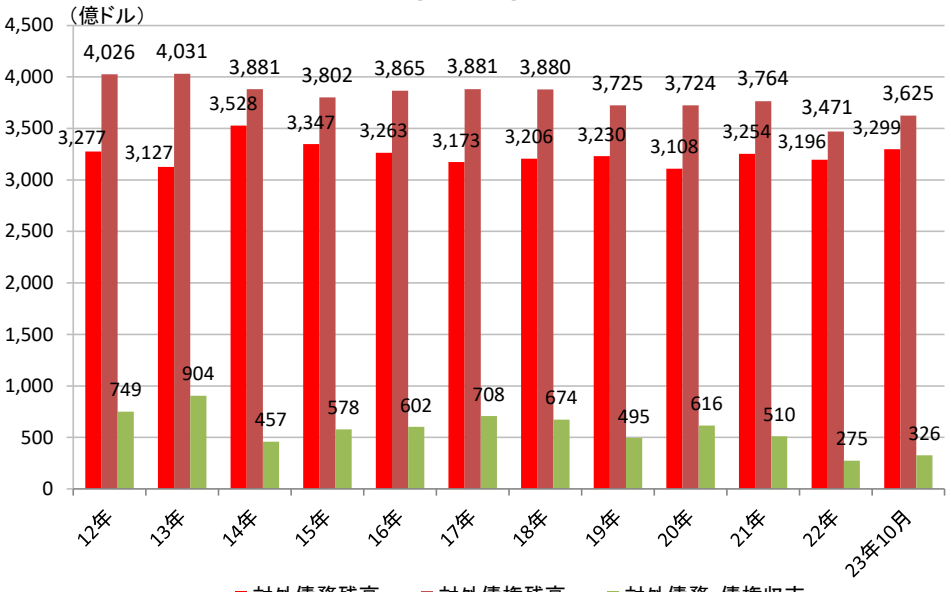
(出典) 伯中央銀行

外国直接投資(資本参加分)流入額



(出典) 伯中央銀行 ※貸付は除く

対外債務・債権収支



(出典) 伯中央銀行

■ 対外債務残高 ■ 対外債権残高 ■ 対外債務・債権収支

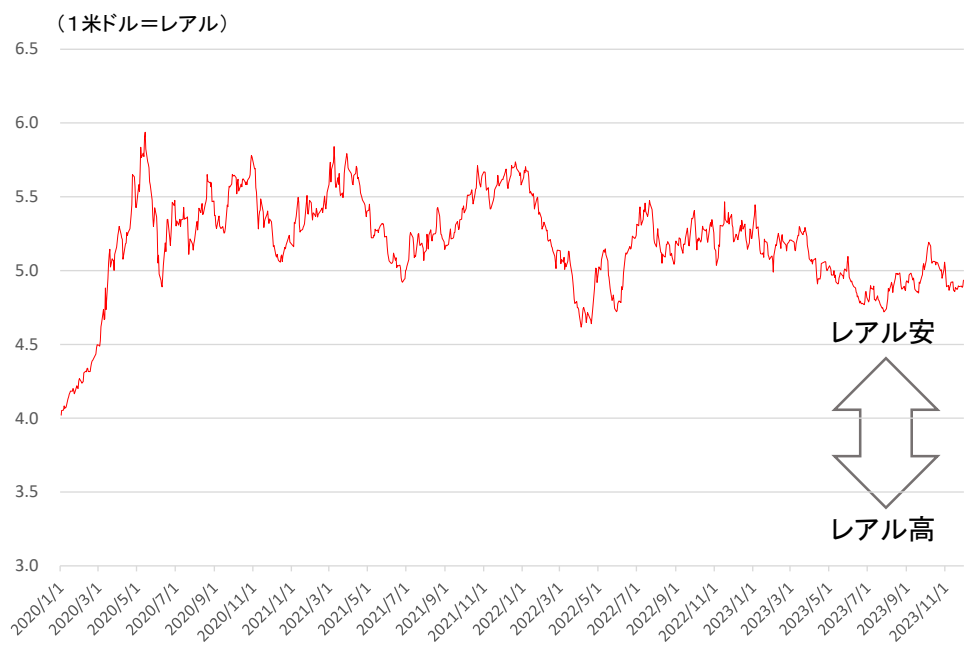
為替・株価の推移

11月の為替市場は4.86～5.02レアル/ドルで推移。

月の前半は4.87～5.02レアル/ドルで推移。米金融政策見通しのほか、国内の税制改革の進展や財政を巡る動向等を材料に概ね上昇傾向で推移した。

月の後半は4.86～4.94レアル/ドルで推移。米国金融政策の見通し等を材料に概ね横ばいで推移した。

為替の推移(対米ドル)



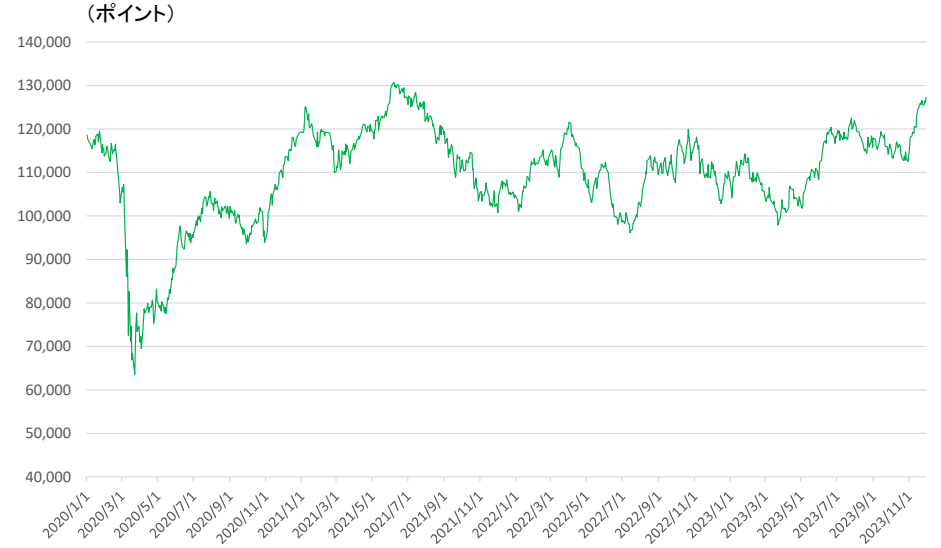
(出典) 伯中央銀行

11月の株式市場は115,053～127,331ポイントで推移。

月の前半は115,053～123,166ポイントで推移。米国金融政策の見通しや国内の税制改革の進展等を材料に、概ね上昇傾向で推移した。

月の後半は124,639～127,331ポイントで推移。米国金融政策の見通しや資源価格の動向等を材料に、概ね上昇傾向で推移した。

株価指数(Ibovespa)の推移

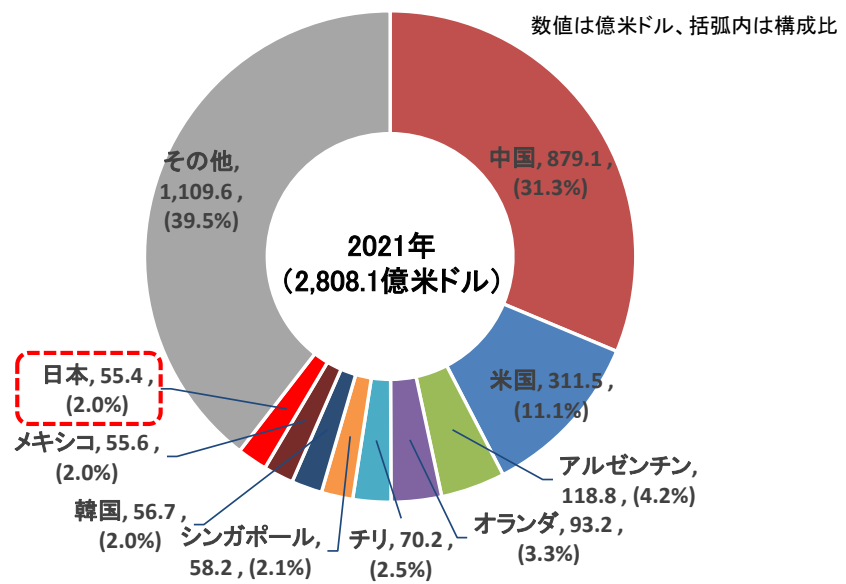


(出典) B3

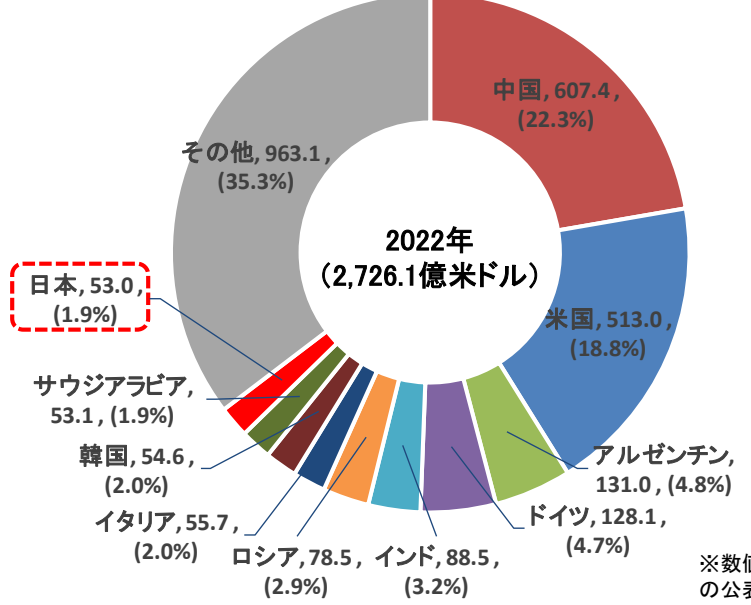
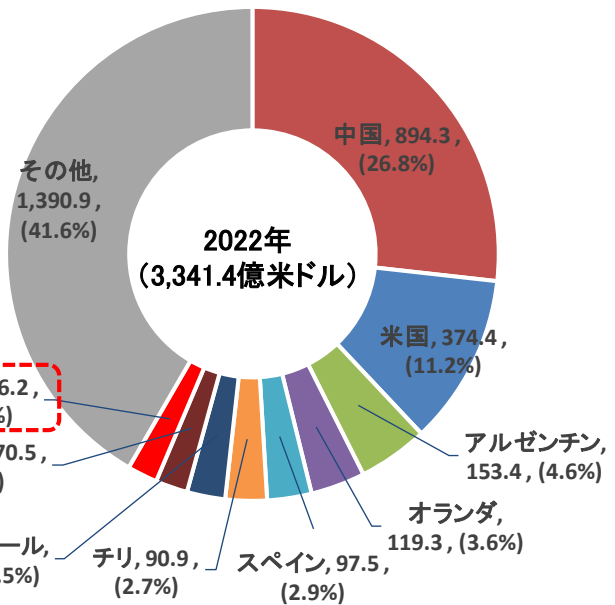
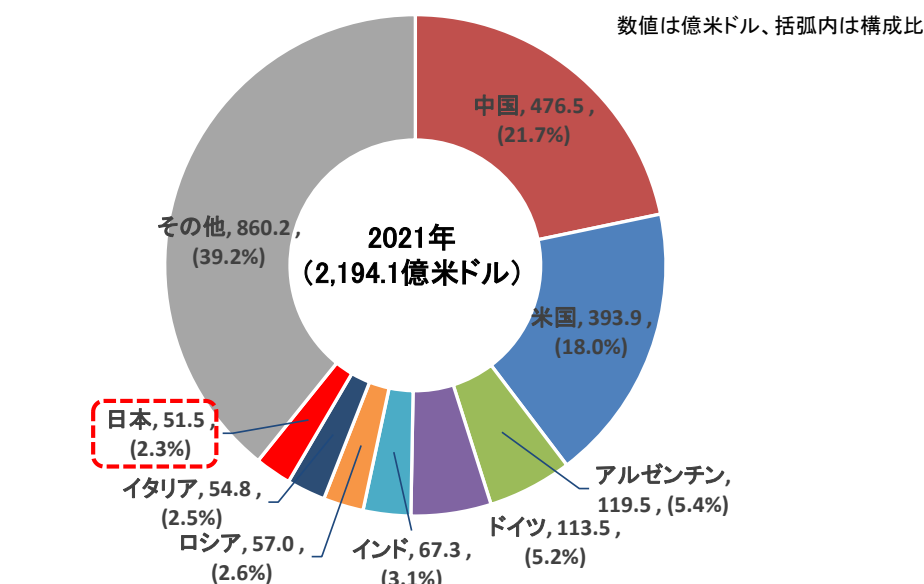
III. 貿易動向

ブラジルの貿易は、輸出、輸入ともに中国、米国、アルゼンチンが上位に占めている。2022年においては、日本は貿易相手国として輸出で9位、輸入で10位となっている。

輸出額と構成比(国別)



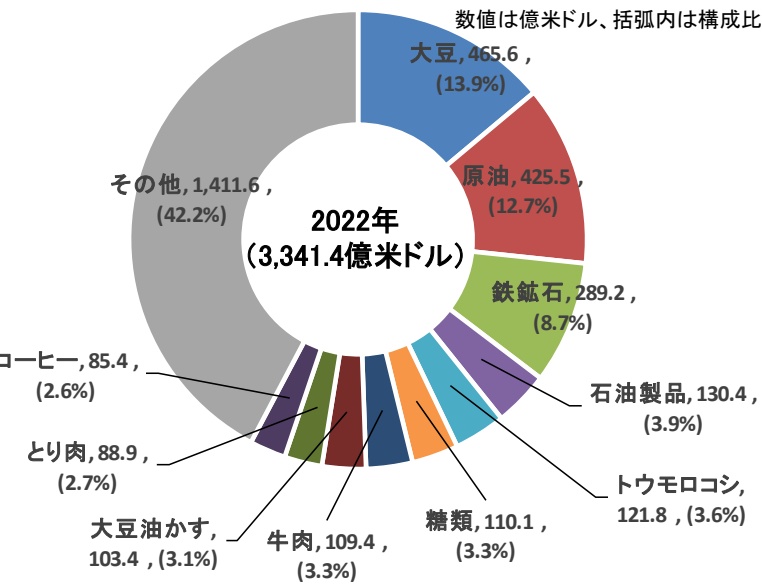
輸入額と構成比(国別)



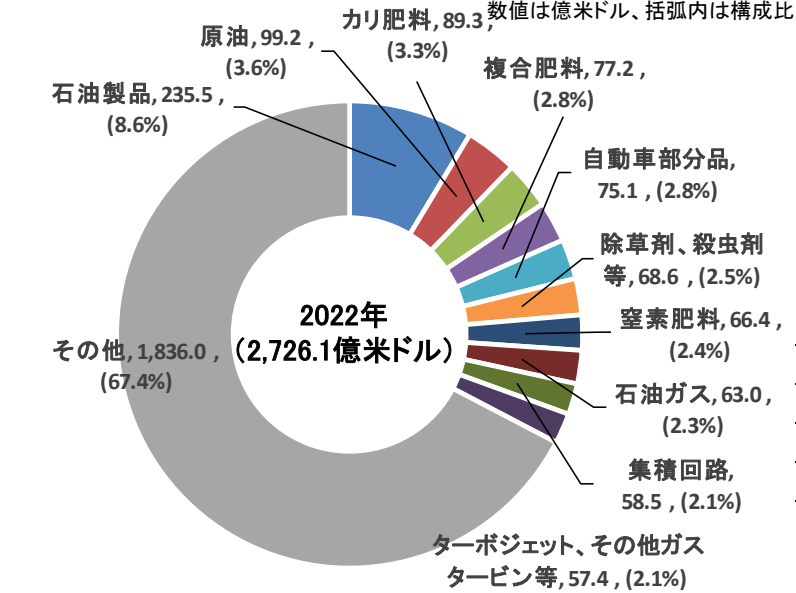
(出典) MDIC
※数値は2023年3月時点
の公表値から算出

主要輸出品目は資源(原油、鉄鉱石等)、食品(大豆、トウモロコシ、糖類、肉類等)。主要輸入品目は石油製品、肥料、自動車部分品を中心に、電気機器など幅広い品目にわたっている。

ブラジルの主要輸出品目と主要相手国



ブラジルの主要輸入品目と主要相手国



【大豆】

	億米ドル	構成比(%)
全体	465.6	100.0
① 中国	317.8	68.3
② スペイン	19.4	4.2
③ タイ	16.8	3.6
④ イラン	13.5	2.9
⑤ オランダ	11.3	2.4

【原油】

	億米ドル	構成比(%)
全体	425.5	100.0
① 中国	165.3	38.8
② 米国	50.6	11.9
③ スペイン	35.7	8.4
④ チリ	31.3	7.4
⑤ ポルトガル	25.3	5.9

【鉄鉱石】

	億米ドル	構成比(%)
全体	289.2	100.0
① 中国	181.9	62.9
② マレーシア	15.2	5.3
③ バーレーン	13.3	4.6
④ 日本	11.0	3.8
⑤ 韓国	8.6	3.0

【石油製品】

	億米ドル	構成比(%)
全体	130.4	100.0
① シンガポール	58.6	44.9
② オランダ	8.8	6.8
③ 米国	4.9	3.8
④ ヴァージン諸島	4.8	3.7
⑤ パナマ	4.7	3.6

【石油製品】

	億米ドル	構成比(%)
合計	235.5	100.0
米国	127.9	54.3
インド	25.9	11.0
UAE	22.4	9.5
オランダ	11.7	5.0
ロシア	11.1	4.7

【原油】

	億米ドル	構成比(%)
合計	99.2	100.0
① サウジアラビア	32.0	32.3
② 米国	30.0	30.3
③ UAE	11.9	12.0
④ オランダ	5.8	5.9
⑤ ロシア	5.7	5.7

【カリ肥料】

	億米ドル	構成比(%)
合計	90.7	100.0
① カナダ	37.1	40.9
② ロシア	24.3	26.8
③ イスラエル	8.7	9.6
④ ドイツ	8.4	9.3
⑤ ベラルーシ	3.6	4.0

【複合肥料】

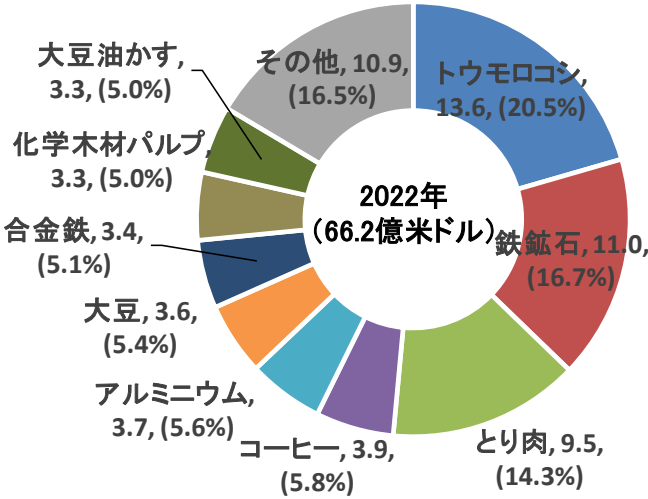
	億米ドル	構成比(%)
合計	77.2	100.0
① ロシア	22.4	29.0
② 米国	14.8	19.2
③ モロッコ	13.3	17.2
④ 中国	8.0	10.3
⑤ サウジアラビア	7.2	9.3

対日貿易

対日貿易においては、主要輸出品目は資源（鉄鉱石、アルミニウム等）や食品（トウモロコシ、肉類、コーヒー、大豆等）、主要輸入品目は自動車関連が中心となっている。

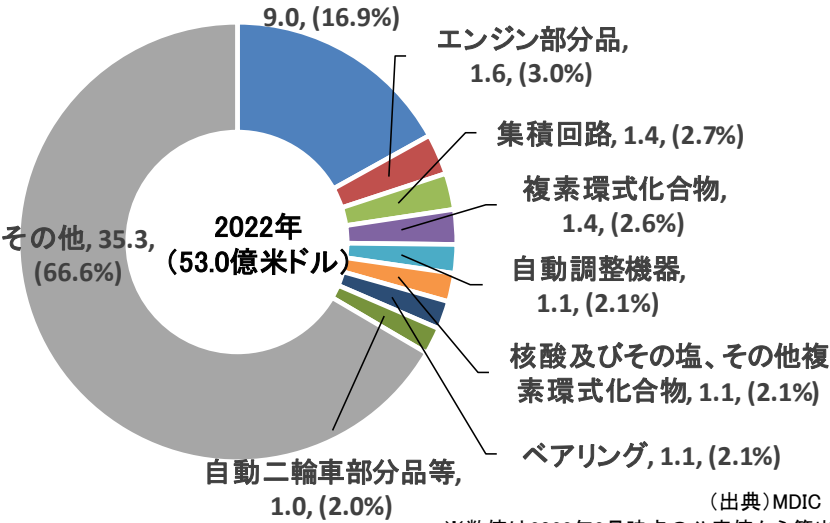
ブラジルの対日本主要輸出品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



ブラジルの対日本主要輸入品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



(出典) MDIC
※数値は2023年3月時点の公表値から算出

ブラジルの対日本主要輸出品目の日本側から見たブラジルの構成比(2022年)

【とうもろこし】			【鉄鉱石】			【とり肉】			【アルミニウム】		
	億円	構成比 (%)		億円	構成比 (%)		億円	構成比 (%)		億円	構成比 (%)
総計	7,643.4	100.0	総計	18,050.2	100.0	総計	2,077.8	100.0	総計	9,206.4	100.0
① アメリカ合衆国	4,921.7	64.4	① オーストラリア	9,579.8	53.1	① <u>ブラジル</u>	1,407.5	67.7	① アラブ首長国連邦	1,711.6	18.6
② <u>ブラジル</u>	1,744.7	22.8	② <u>ブラジル</u>	5,818.4	32.2	② タイ	611.4	29.4	② ロシア	1,501.2	16.3
③ アルゼンチン	530.2	6.9	③ カナダ	1,313.9	7.3	③ アメリカ合衆国	33.6	1.6	③ オーストラリア	1,388.7	15.1
④ 南アフリカ共和国	379.6	5.0	④ 南アフリカ共和国	611.0	3.4	④ ハンガリー	6.2	0.3	④ ニュージーランド	681.0	7.4
⑤ ウクライナ	41.7	0.5	⑤ アメリカ合衆国	273.4	1.5	⑤ フランス	6.0	0.3	⑤ サウジアラビア	586.1	6.4
【コーヒー】			【大豆】			【合金鉄】					
	億円	構成比 (%)		億円	構成比 (%)		億円	構成比 (%)			
総計	2,333.3	100.0	総計	3,391.0	100.0	総計	4986.1	100.0			
① <u>ブラジル</u>	572.6	24.5	① アメリカ合衆国	2,420.1	71.4	① カザフスタン	956.3	19.2			
② コロンビア	396.4	17.0	② <u>ブラジル</u>	570.1	16.8	② 中華人民共和国	557.3	11.2			
③ ベトナム	306.6	13.1	③ カナダ	364.6	10.8	③ ロシア	533.6	10.7			
④ エチオピア	179.9	7.7	④ 中華人民共和国	33.4	1.0	④ <u>ブラジル</u>	500.8	10.0			
⑤ グアテマラ	175.8	7.5	⑤ ロシア	2.7	0.1	⑤ マレーシア	497.0	10.0			

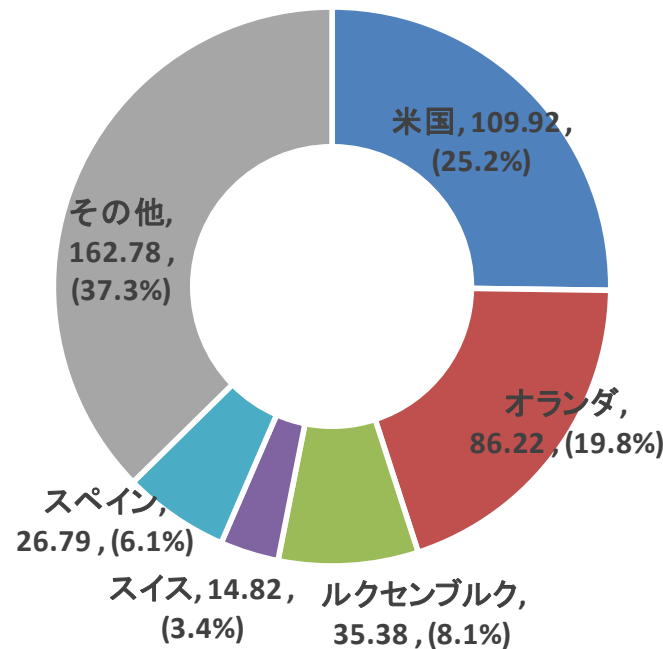
※日伯ともにHS番号4桁の数値。鉄鉱石2601、とうもろこし1005、とり肉0207、コーヒー0901、アルミニウム7601、合金鉄（フェオアロイ）7202、大豆1201

(出典) 財務省(日本)
※数値は2023年3月末時点の公表値から算出

IV. 日伯投資

対ブラジル直接投資(資本参加分)の国別構成比
総額435.9億ドル(2022年)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



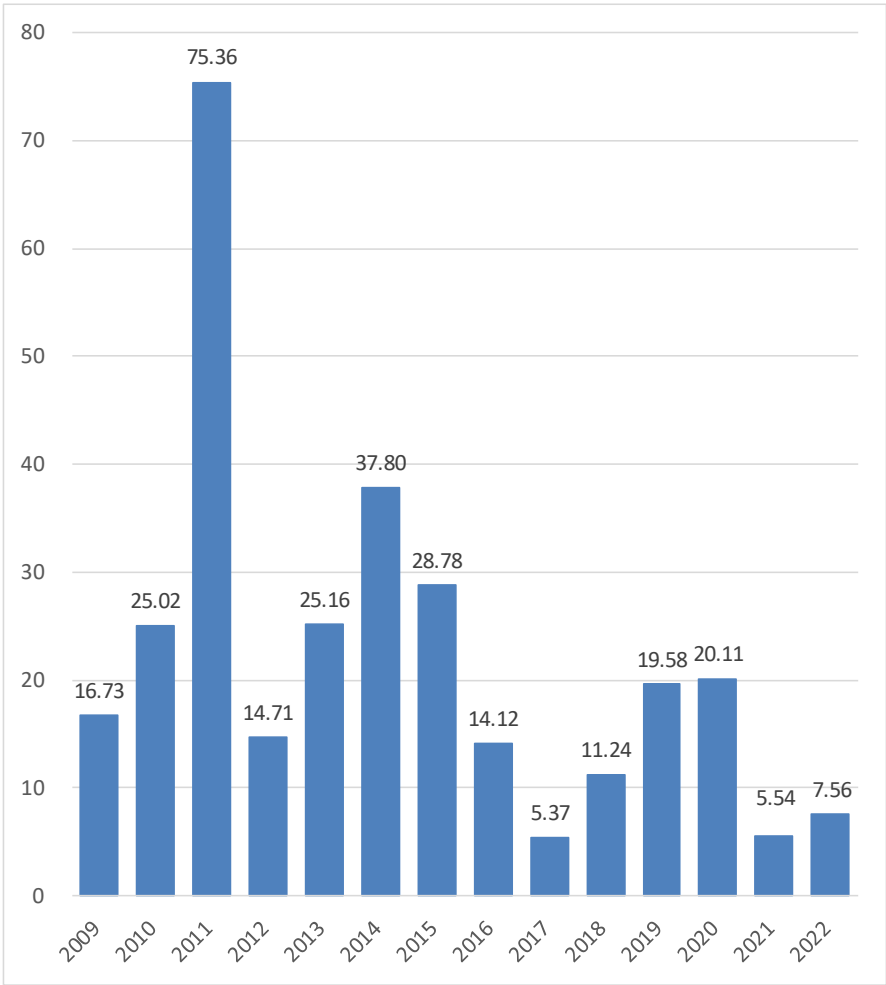
(出典) 伯中央銀行

2022年の日本の直接投資額(資本参加分)は7.56億ドルで構成比は1.73%と、10番目の規模。

※ 中国:0.35億ドル(0.08%)。但し、第三国経由の投資額が含まれていないため、実際よりも少ない数値となっている。

日本の対ブラジル直接投資(資本参加分)の推移

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行